

◎ 評価対象分野・施策の方針

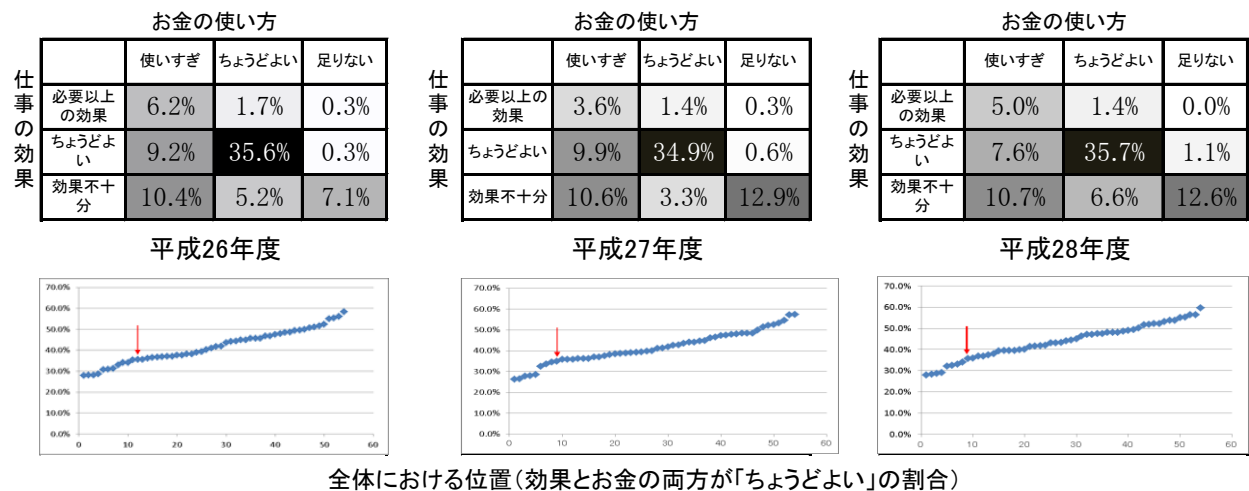
総合計画上の位置付け	分野	みどり	施策の方針	都市公園等の整備・管理
------------	----	-----	-------	-------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	17.3%	平成27年度	16.9%	平成28年度	14.7%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



<妥当性の分析>

平成28年度の結果として、仕事の効果、お金の使い方ともに「ちょうどよい」の数値が35.7%と最も高くなっているが、仕事の効果については「効果不十分」、お金の使い方については「足りない」が12.6%。次に「効果不十分」、「使いすぎ」が10.7%と効果を感じ取れていない市民が比較的多いことが分かる。

仕事の効果とお金の使い方の両方が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、施策の方針等全54件の中では、比較的低い値となっており、経年的には、これらの傾向にあまり大きな変化は見られない。

今後は、鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画に基づき、事業を進め、仕事の効果、お金の使い方ともに「ちょうどよい」になるよう努める。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	26.5%	45.5%	8.9%	19.2%	100.0%
平成27年度	25.8%	43.5%	8.3%	22.5%	100.0%
平成26年度	21.5%	46.0%	8.8%	23.7%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①平成27年度に策定したインフラマネジメント計画に基づき老朽化した公園施設の予防保全的な維持管理や緑地の予防的な防災措置の具体的手法を検討する。(都整-37)
- ②公園の用地取得については、引き続き(仮称)山崎・台峯緑地の用地取得を継続し、公園整備については扇湖山荘防災工事、(仮称)山崎・台峯緑地(公園)整備工事、山ノ内東瓜ヶ谷緑地整備工事を実施していく。(都整-38、39)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
都整-35	緑地維持管理事業	32,179	41,591	47,450	57,163	2.0	2.0	a	A
都整-36	公園運営事業	170	168	2,461	4,061	0.3	0.5	b	B
都整-37	公園維持管理事業	293,226	309,275	308,497	327,182	2.0	2.3	b	B
都整-38	公園整備事業	83,386	62,017	98,657	77,589	2.0	2.0	b	B
都整-39	公園用地取得事業	1,110,828	716,642	1,133,735	740,000	3.0	3.0	b	C

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

- ①平成27年度に策定した社会基盤施設マネジメント計画に基づき、社会基盤施設管理方針を策定した。(都整-37)
 ②公園の用地取得については、(仮称)山崎・台峯緑地や山ノ内西瓜ヶ谷緑地の用地取得した。公園整備については、(仮称)扇湖山荘防災工事を実施した。(都整-38、39)

【実施できなかった事業とその理由等】

- ②(仮称)山崎・台峯緑地(公園)整備工事、山ノ内東瓜ヶ谷緑地整備工事を実施したが、年度内に予定していた工事を終了することができなかった(都整-38)

(4) 平成28年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☒ 適切	☐ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☐ 適切	☒ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・緑地管理については、市民生活に支障が及ばないよう、樹木の伐採を行い良好な維持管理に努めた。
- ・各協議会等が主催する研修会等に参加した職員からの報告を受けるなどして職員の知識の向上を図った。
- ・都市公園の効率的な運営と利用者サービスの向上を目指し、樹木剪定や公園施設の修繕等を行い、適正な維持管理に努めた。
- ・公園整備については(仮称)山崎・台峯緑地及び(仮称)山ノ内東瓜ヶ谷緑地の整備工事を社会資本整備総合計画に位置づけ、国庫補助を活用して整備等を進めたが、年度内に事業を終わらせることができなかったことから「有効性」を要改善とした。
- ・用地取得については、(仮称)山崎・台峯緑地及び山ノ内西瓜ヶ谷緑地の整備を社会資本整備総合計画に位置づけ、国庫補助を活用し進めた。
- ・(仮称)山崎・台峯緑地(公園)の都市計画事業認可期間を平成32年度末までに延伸したことから「有効性」を要改善とした。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- 鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画に基づき施設の特性を踏まえ、予防保全型管理と事後保全型管理を効果的に組み合わせ、計画的かつ効率的な維持・管理・補修・更新・運営を行う。
- 既存緑地については、平成29年度に緑地維持管理計画を策定し、既存公園については、平成30年度に長寿命化計画を策定する。
- 公園整備については市民からの期待が大きく、引き続き計画に基づき用地取得及び整備事業を実施していくが、施設整備や既存公園の維持管理等多額の費用が必要となる。

4 平成29年度の目標

- ①既存緑地については、良好な維持管理に努めるとともに社会基盤施設管理方針に基づき、緑地維持管理計画を策定する。
- ②公園整備については、公園施設の長寿命化計画の策定に向けた調査・検討を行う。
- ③(仮称)山崎・台峯緑地(公園)整備工事を実施する。
- ④公園の用地取得については、国庫補助を活用し、(仮称)山崎・台峯緑地や鎌倉広町緑地の用地取得を継続する。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	都整-35	事業名	緑地維持管理事業									
指標の内容	伐採、枝払い等の要望件数に対する達成率						単位	%	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
家屋等に損害を及ぼす恐れのある危険な樹木は市民の日常生活に支障となるため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	実績値	81.8	63.8	50.6								
	達成率	81.8%	63.8%	50.6%								

整理番号	都整-38,39	事業名	人口1人当たりの都市公園面積(各年次4月1日時点)									
指標の内容	人口1人当たりの都市公園面積(各年次4月1日時点)						単位	m ² /人	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
都市公園法に基づき、鎌倉市都市公園条例において、住民1人当たりの都市公園の敷地面積の標準を設定している。	目標値	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6	14.6					
	実績値	5.8	8.6	8.6	8.7							
	達成率	39.7%	58.9%	58.9%	59.6%							

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・全体として取組が見えにくい。特に公園の運営、維持管理に関しては、定常化している印象が強い。
- ・市民との協働により、目標とすべきまちの姿に対してどの程度進捗したかが分からない。
- ・予算の過半を占める「公園用地取得事業」の取得内容が分からない。
- ・抱えている課題が明示されていないので、課題を明示し、それに対して実施した内容を記述することが求められる。



指摘への対応、コメント等

- 取組内容を理解しやすい表現に改めた。ただし、公園の維持管理については、定常的に取組んでいく事業だと認識している。
- 多くの愛護会があり、均一的に目標値を設定して評価していくことは困難であるので、進捗率をどのように表現するか検討していきたい。
- 取組内容を理解しやすい表現方法に改めた。
- ご指摘のとおり、課題と実施した内容を記述した。

提言

- ・既存公園については、引き続き指定管理者による公園の管理運営を行いつつ、長寿命化計画に基づく修繕業務を実施していくべきであり、遊具等による事故のないよう全公園の遊具等の現状調査を行い、長寿命化計画に反映させることが重要である。
- ・楽しく魅力的な公園づくりのため、周辺住民や子どもたちの意見も取り入れるべきである。
- ・山崎・台峰緑地の用地取得の継続を進めてほしい。
- ・鎌倉市の緑地公園は、せっかく整備されてもアクセスが悪く、また、駐車場も無いことから限られた地域の市民しか利用できない。より多くの市民が活用できるよう、連絡バスを走らせる等、何らかのアクセス手段を検討すべきである。



提言に関するコメント等(総論)

- ・指定管理者による公園の管理運営は、課題や懸案事項を検証しながら継続していく。また、公園の遊具等は、長寿命化計画に基づき維持管理していく。
- ・魅力的な公園づくりに向けて、常に市民の意見を傾聴していく。
- ・今後も実施計画に基づき実施していく。
- ・施設へのアクセスについては、既存の交通公共機関を利用いただいているところであり、現時点では、新たに連絡バスを走らせる予定はないが、課題のひとつとしては認識している。今後、新たに指定管理等実施する中で検討していきたい。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・台峯緑地、西瓜ヶ谷緑地の用地を取得し、防災工事などに取り組んだ。
- ・市民1人あたりの面積8.7㎡を確保した。指定管理者制度やNPOとの協働により、公園は適正に管理している。
- ・平成25年度に策定した長寿命化計画に基づき、13公園の遊具の修繕を実施した。
- ・昨年度までは指標を設定していなかったが、今年度より指標を設定した。
- ・前年度の外部評価結果への対応がなされている。特に提言に関しては一つ一つの提言に対してコメントがされている。

評価の内訳							⇒	委員会の評価
取組	↗	3	↘	1	→	4		→
効果	○	1	△	2	—	5		—

《課題》

- ・「鎌倉市基盤施設マネジメント計画」によると公園の6割の遊具が要補修更新とある。同じく耐用年数から大幅に維持管理費もかかるとある。その対策が課題である。
- ・公園の維持、管理にあたって地域住民、NPO等との協力体制をつくり上げみんなの公園の意識が持てるよう市民との意見交換を行いニーズを組み入れていくことが重要である。
- ・公園協会がほとんどの公園の指定管理者となっているが、体制の見直しをする必要がある。
- ・既存公園については、引き続き指定管理者による、公園の運営管理を行い、併せて長寿命化計画に基づく修繕業務を実施していく。遊具等による事故の無いよう全公園の遊具等の現状調査を行い長寿命化計画に反映させる必要性がある。
- ・都市公園の一人あたり14.6㎡と指標を設定しているが、考え直す必要がある。
- ・人口減少・高齢化が進展するという時代背景の中で、「公園用地取得」(28年度決算値7.1億円)はどこまで進めるのかを明確にすることが課題。子孫世代に「整備費負担」をさせることになる。
- ・「実施できなかった事業とその理由等」に「年度内に予定していた工事を終了することができなかった」とあるが、終了できなかった理由で明記すべきである。
- ・整備事業については、永続的に続くものなので住民との連携を図りながら管理の体制を構築していくべきである。

《提言》

- ・アクセスが悪いとされる当市の都市公園であるが、各公園利用者の特性および利用実態を把握することで「個別公園の整備内容の拡大・縮小」を検討すべきである。
- ・楽しく魅力的な公園づくりのため、周辺住民や子どもたちの意見も取り入れるようにすべきである。
- ・平成32年に最終値として「人口一人当たりの都市公園面積」が目標値に対して100%になるのであれば、そこから逆算しての進捗状況を指標にすべきである。
- ・「目標とすべきまちの姿」にあるライフサイクルコストの計算がされていない。ライフサイクルコストを把握し、如何に低く抑えるかを検討し、更に定期的に見直し、常に最良の整備・管理方針を定めるべきである。

《質問》

- ・「緑地の伐採・枝払い」は要望件数に対する達成率が指標となっているが、計画的に伐採・枝払いしているのは少数なのか。
- ・人口1人当たりの都市公園面積を指標に掲げているが、山崎・台峯緑地整備工事が終わるまでに数値が上がる手立てはあるのか。場合によっては、年度ごとに達成できるの指標を掲げたほうが評価がしやすい。